

# 2018年3月期 上期 決算概要

---

テルモ株式会社  
常務執行役員 IR・広報室担当  
北畠 一明

2017年11月9日

2018年3月期上期の決算概要について説明いたします。

## 売上および全ての利益において過去最高を達成

(億円)

	16年度上期	17年度上期	増減率	為替除く 増減率
売上高	2,451	2,846	+16%	+12%
粗利益	1,350 (55.1%)	1,597 (56.1%)	+18%	+15%
一般管理費	793 (32.4%)	938 (33.0%)	+18%	+14%
研究開発費	163 ( 6.6%)	180 ( 6.3%)	+11%	+8%
営業利益	394 (16.1%)	479 (16.8%)	+22%	+20%
(のれん等償却除く)	486 (19.8%)	624 (21.9%)	+28%	+26%
経常利益	306 (12.5%)	470 (16.5%)	+53%	
純利益	204 ( 8.3%)	330 (11.6%)	+61%	
期中平均レート	USD 105円	111円		
	EUR 118円	126円		

- 売上高 : 心臓血管カンパニーが全体を牽引し、為替を除いても二桁伸長を達成
- 営業利益 : 3カンパニー全てが二桁伸長し大幅増益を達成。三期連続で最高益更新
- 経常利益 : 前年同期の為替差損(66億)に対し、今年度は差益(4億)



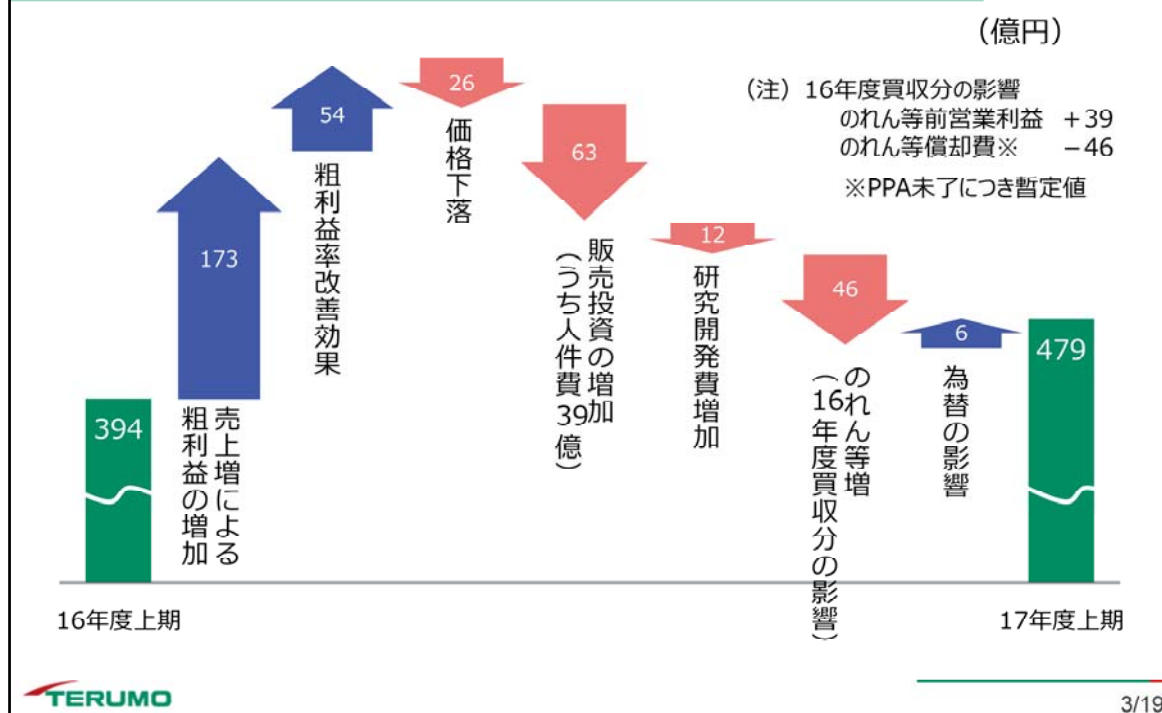
2/19

上期の業績は10月19日に発表した修正予想値を若干上回りましたが、ほぼ想定通りの水準となりました。売上高および全ての利益で過去最高値を更新するとともに、好調な業績を受けて、第2四半期末の配当金、期末配当金の予想額をそれぞれ22円から23円に増額しました。

売上高は前年同期比16%増、為替の影響を除くと12%増となりました。また、2016年度に実施した買収の影響を除いても9%増となりました。心臓血管カンパニーは全4事業で二桁伸長を達成し、カンパニー全体でも30%伸長と全社の業績を牽引しました。

営業利益は、3カンパニーいずれも前年同期比20%以上伸長し、全社で22%増となりました。その結果、3期連続で上期の過去最高値を更新しました。営業利益の増加に加えて、前年同期の為替差損に対し、当上期は差益を計上したこともあり、純利益は前年同期比61%増の330億円となりました。

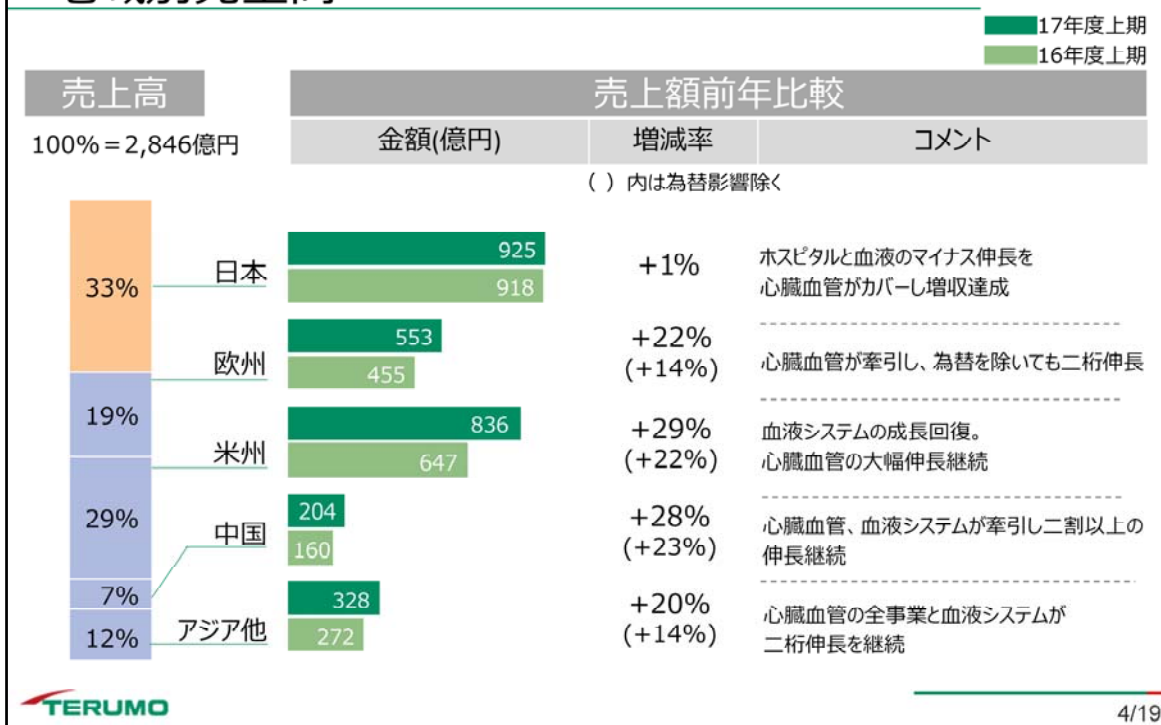
## 営業利益増減分析



営業利益の前年同期比での増減分析です。

最大の増益要因は、売上増による粗利益の増加でプラス173億円でした。粗利益率改善効果はプラス54億円、主な内訳として、既存事業のミックス改善でプラス14億円、2016年度に買収した事業の粗利益の寄与がプラス20億円でした。一方、減益要因である価格下落、販売投資の増加、研究開発費の増加、のれん等償却費の増加は、概ね第1四半期と同様のトレンドとなりました。為替の影響は、第1四半期がマイナス15億円でしたが、上期ではプラス6億円となりました。

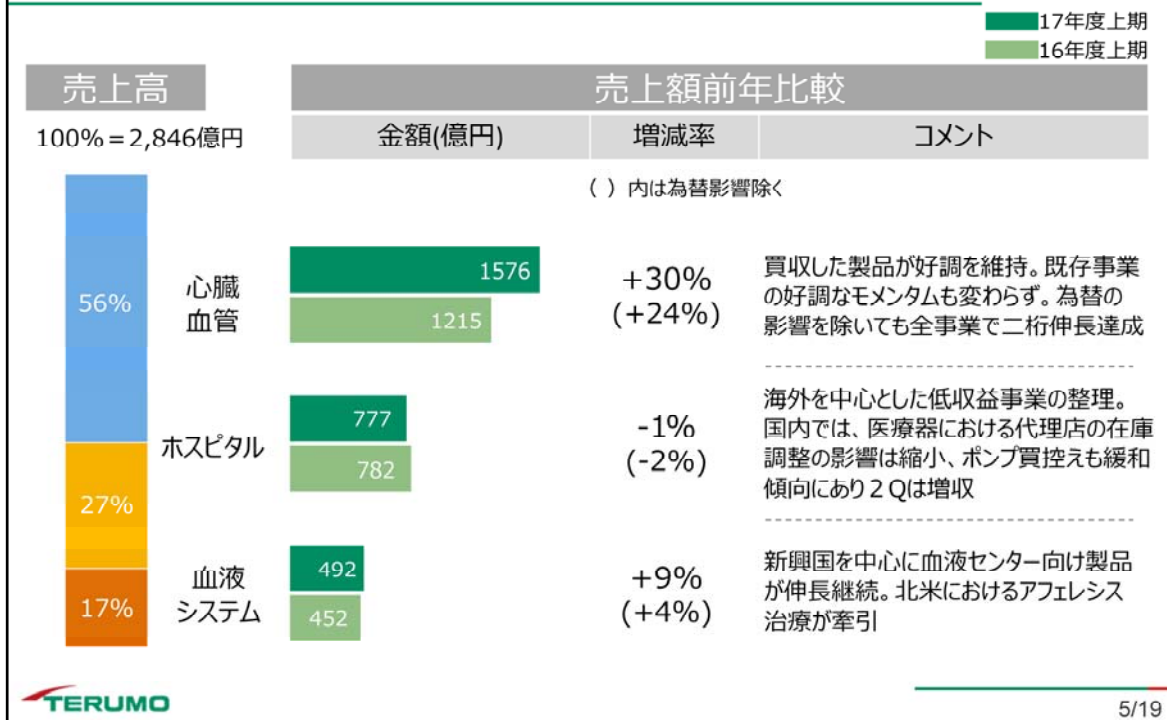
# 地域別売上高



地域別の売上高です。

日本の売上高は、第1四半期は1%減でしたが、第2四半期は増収となり、上期で前年同期比1%増となりました。海外の売上高は全地域で20%以上伸長しました。特に心臓血管カンパニーの海外売上高は35%増となり、全社の売上拡大を牽引しました。血液システムカンパニーの海外売上高も二桁伸長となりました。

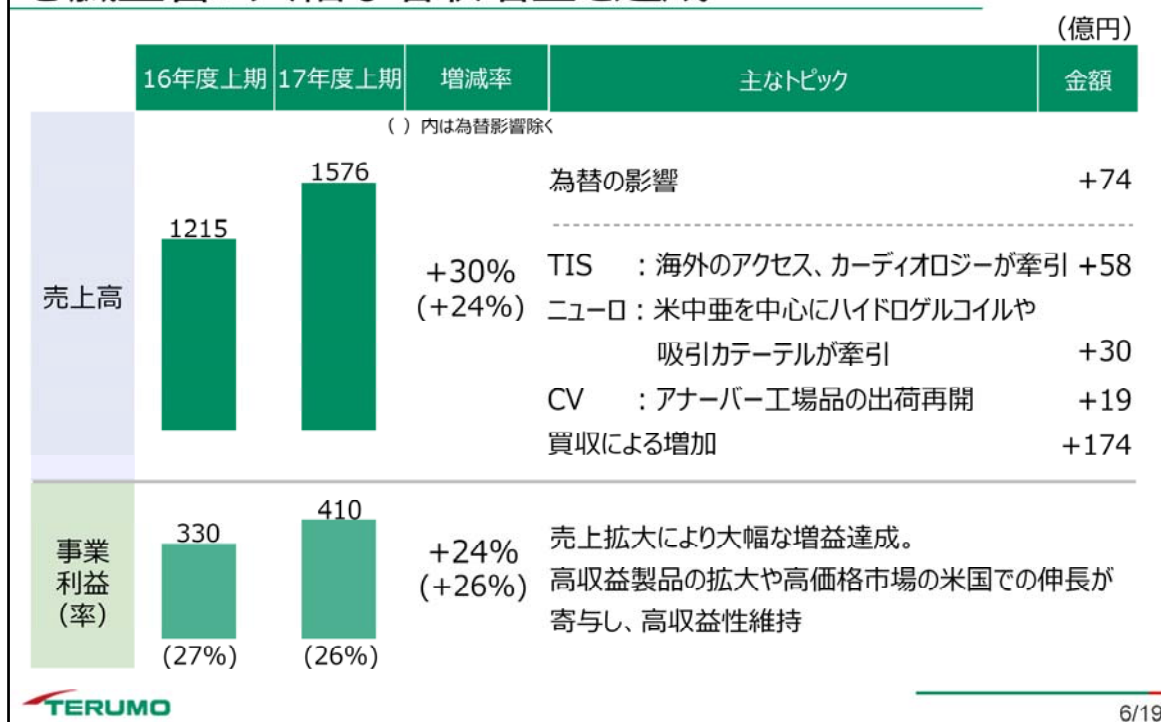
## カンパニー別売上高



カンパニー別の売上高です。

心臓血管カンパニー、血液システムカンパニーが増収、ホスピタルカンパニーが減収となりました。心臓血管カンパニー、血液システムカンパニーの上期の増収率は第1四半期を上回るとともに、ホスピタルカンパニーの減収率も第1四半期のマイナス4%から、上期はマイナス1%へと改善しました。

## 心臓血管：大幅な増収増益を達成



心臓血管カンパニーの売上高は前年同期比30%増となりました。

TIS事業の売上高は、買収した止血デバイスに加えて、アクセスデバイスやカーディオロジーなど既存事業の売上も好調に推移し、前年同期比でプラス58億円※となりました。

ニューロバスキュラー事業は、米国や中国、アジアを中心に、脳動脈瘤治療用のハイドロゲルコイルや吸引カテーテルの売上が好調に推移し、前年同期比でプラス30億円※となりました。買収の影響を除く売上伸長率は37%となり、心臓血管カンパニーの4事業の中で最も高い水準となりました。

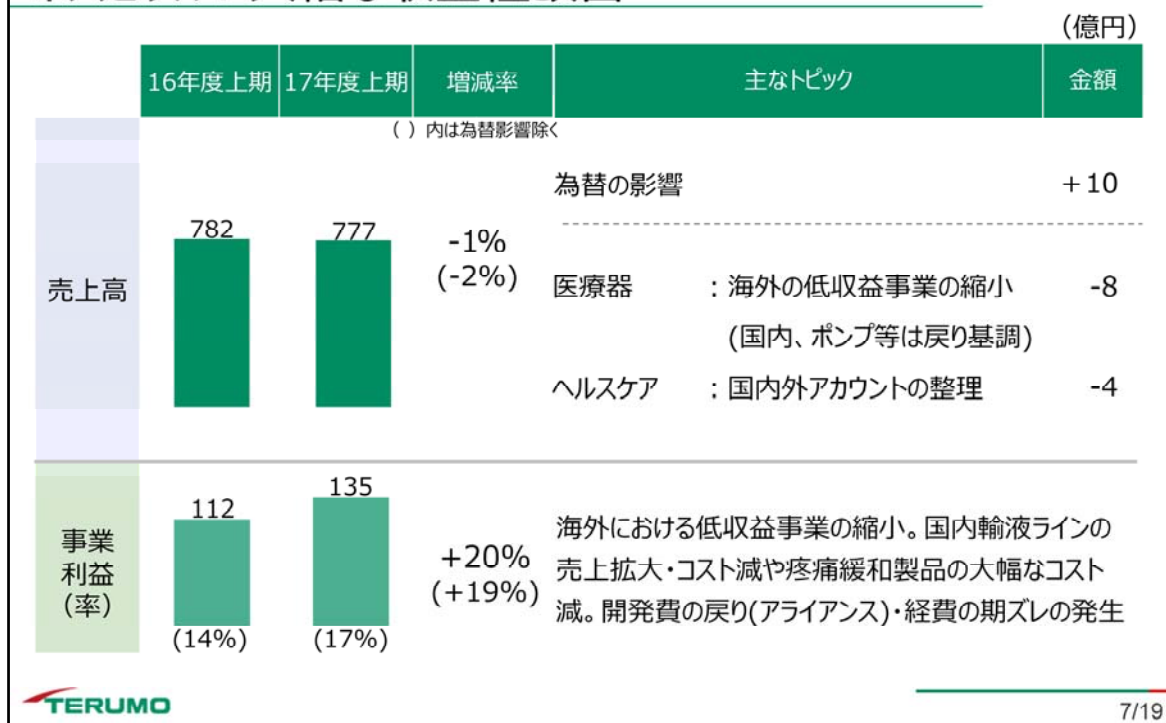
CV事業の売上高は、テルモカーディオバスキュラーシステムズ社の米国アナーバー工場において、コンセント・ディクリーに基づく販売制限が全て解除され、血液モニターの出荷が再開されたことなどが寄与し、為替の影響を除く前年同期比でプラス19億円となりました。下期以降は、人工心肺システムの出荷も徐々に増えていく見込みです。

2016年度に買収した事業の売上寄与は、為替の影響を除いた前年同期比でプラス174億円でした。

売上拡大に伴い、事業利益も前年同期比24%増となり、事業利益率も26%と高い水準を維持しました。

※注：為替および2016年度に実施した買収の影響を除いた金額を示しています。

## ホスピタル: 大幅な収益性改善

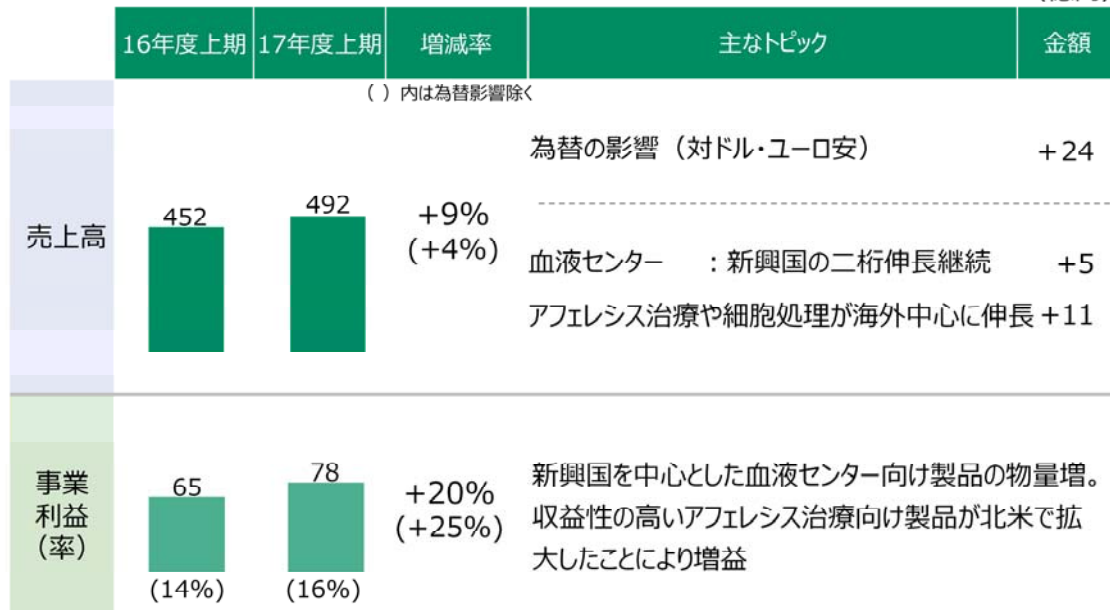


ホスピタルカンパニーの売上高は、前年同期比1%減となりました。主な減収要因は、医療器の分野で、海外の低収益事業を縮小したことに加え、ヘルスケア分野の製品で、国内外のアカウント整理を行ったことが主な要因です。第1四半期は代理店の在庫調整や、輸液ポンプ・シリンジポンプの買い控えの影響がありましたが、第2四半期以降、回復基調に転じています。

事業利益は前年同期比20%増、事業利益率も3ポイント改善し、17%となりました。第1四半期の事業利益率が15%であったのに対し、第2四半期は19%と大きく改善しました。低収益事業の縮小やアカウントの整理による収益改善、閉鎖式輸液ライン、輸液ポンプなど収益性の高い製品の売上増に加えて、経費の計上時期のずれ、アライアンス事業における受託開発費の戻りなど、一時的なプラス要因も重なったことが要因です。

## 血液システム：売上成長および収益性の改善基調続く

(億円)



8/19

血液システムカンパニーは、第1四半期に続き、売上高、事業利益ともに回復基調となりました。米国の血液センター向け製品の価格が下げ止まったことに加え、収益性の高いアフレス治療向け製品や、細胞処理分野の製品の売上伸長も収益改善に寄与しました。



## 主なトピックス

### 全社

- 17年度グッドデザイン賞を受賞



血管内超音波システム  
「ビジューブ」  
「アルタビュー」



医用電子血圧計  
「エリマー-2」

- CSR活動：米ハリケーンや九州集中豪雨被害への義援金・物資支援  
芸術・文化活動への助成（伝統工芸継承の支援）

- 南カリフォルニアにMicroVention Worldwide Innovation Center開設  
ニューロ、TIS末梢血管領域の開発シナジー加速（9月）



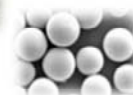
### 事業

- 豪州で「Ultimaster」ローンチ（8月）

- 日本で「テルフュージョン輸液ポンプ28型」ローンチ（8月）



- 欧州で放射線塞栓ビーズ「QuiremSpheres」ローンチ（9月）



9/19

当上期の主なトピックスです。

9月25日より、南カリフォルニアのMicroVention Worldwide Innovation Centerが本格的に稼働を開始しました。ニューロバスキュラー事業とTIS事業の末梢血管領域双方の製品開発を担う拠点として、開発におけるシナジーの創出を目指します。

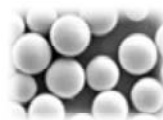
## 17年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	領域	製品	地域
心臓	PTCAバルーン	米: Q4	CV	人工心肺装置(再出荷)	◎ 済み
ペリフェラル	ステント(TRI)	★ 日・米・欧 Q4		次期・人工肺	◎ 日・欧 FY18
	PTAバルーン(TRI)	★ 日・米・欧 Q4	医療器	縦型・輸液ポンプ	日: 済み
	PTAガイディングシース(TRI)	★ 日・米・欧 Q4		抗がん剤暴露防止システム	済み
	薬剤塗布バルーン	◎ ★ 欧: Q4	DM	パッチ型・インスリンポンプ	★ 日
	塞栓コイル	◎ 済み	血液	次期・成分採血装置ソフトウェア	日: 済み
脳	プロテクションデバイス	済み			
	ハイドロゲルコイル 3D	済み			
オンコロジー	放射線塞栓栓ビーズ	★ 済み			

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高



縦型・輸液ポンプ  
「テルフュージョン  
輸液ポンプ28型」日



放射線塞栓栓ビーズ  
「QuiremSpheres」欧



次期・成分採血装置ソフトウェア  
「トリマアクセルVer.7」日

10/19

2017年度のパイプライン製品のローンチ状況です。

ほぼ計画通り順調に進捗しています。

以上で説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

# 参考資料

## 17年度上期 事業別・地域別売上高と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	264 (+8%)	1312 (+28%)	396 (+23%)	587 (+32%)	167 (+25%)	161 (+28%)	1576 (+24%)
うちカテーテル※	202 (+7%)	1064 (+29%)	318 (+21%)	456 (+38%)	156 (+24%)	135 (+29%)	1265 (+25%)
ホスピタル	607 (-1%)	171 (-4%)	39 (-5%)	36 (-7%)	10 (+6%)	84 (-3%)	777 (-2%)
血液システム	54 (-6%)	438 (+5%)	117 (-1%)	212 (+6%)	26 (+17%)	82 (+9%)	492 (+4%)
合計	925 (+1%)	1921 (+18%)	553 (+14%)	836 (+22%)	204 (+23%)	328 (+14%)	2846(+12%)

※ニューロバスキュラー事業含む  
( ) 内は為替影響除く前年比伸長率



## 販管費

(億円)

	16年度上期	17年度上期	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	358	414	+56	+16%	+11%
販促費	75	80	+5	+7%	+3%
物流費	55	61	+6	+11%	+9%
償却費	123	184	+61	+50%	+43%
その他	182	199	+17	+9%	+6%
一般管理費計	793 (32.4%)	938 (33.0%)	+145	+18%	+14%
研究開発費	163 (6.6%)	180 (6.3%)	+17	+11%	+8%
販管費合計	956 (39.0%)	1,118 (39.3%)	+162	+17%	+13%

## 四半期の動き

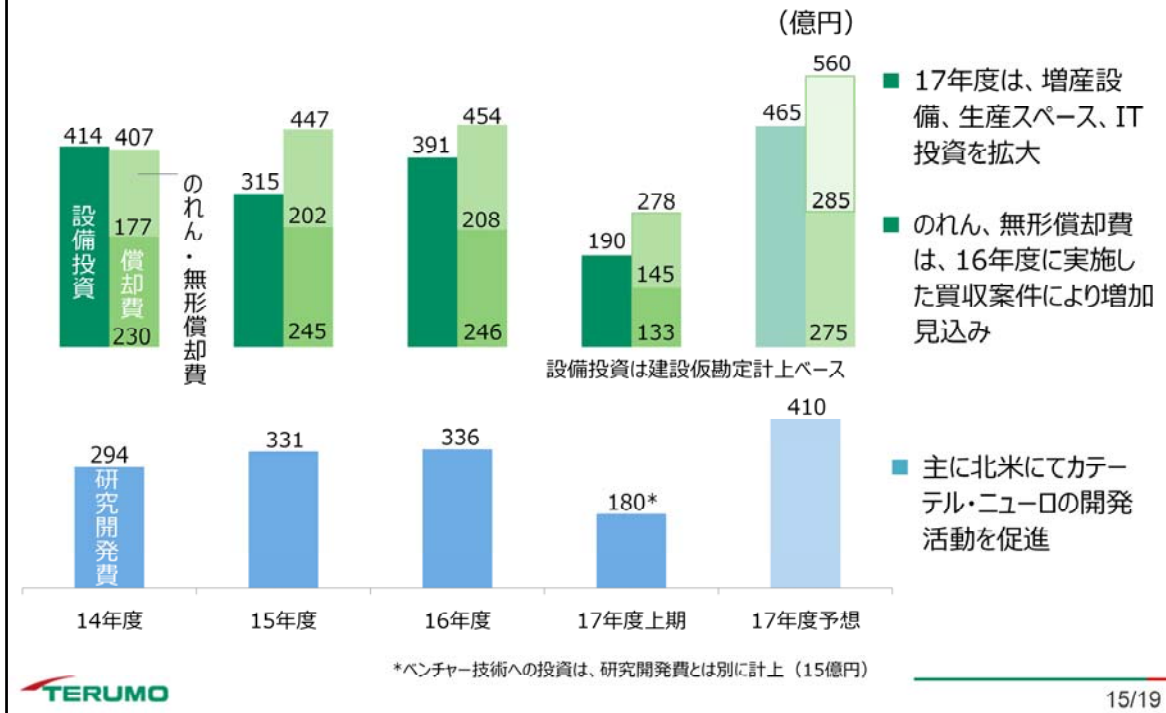
(億円)

	16年度Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	17年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上高	1,206	1,293	1,398	1,393	1,453
粗利益	658 (54.6%)	687 (53.2%)	743 (53.2%)	783 (56.2%)	814 (56.1%)
販管費	396 (32.9%)	410 (31.7%)	474 (34.0%)	464 (33.3%)	473 (32.6%)
開発費	82 (6.8%)	82 (6.4%)	92 (6.6%)	85 (6.1%)	96 (6.6%)
営業利益	180 (14.9%)	195 (15.1%)	177 (12.6%)	234 (16.8%)	245 (16.9%)
のれん等償却 除く営業利益	226 (18.8%)	245 (19.0%)	242 (17.4%)	306 (22.0%)	318 (21.9%)
四半期 平均レート	USD 102円	109円	114円	111円	111円
	EUR 114円	118円	121円	122円	130円

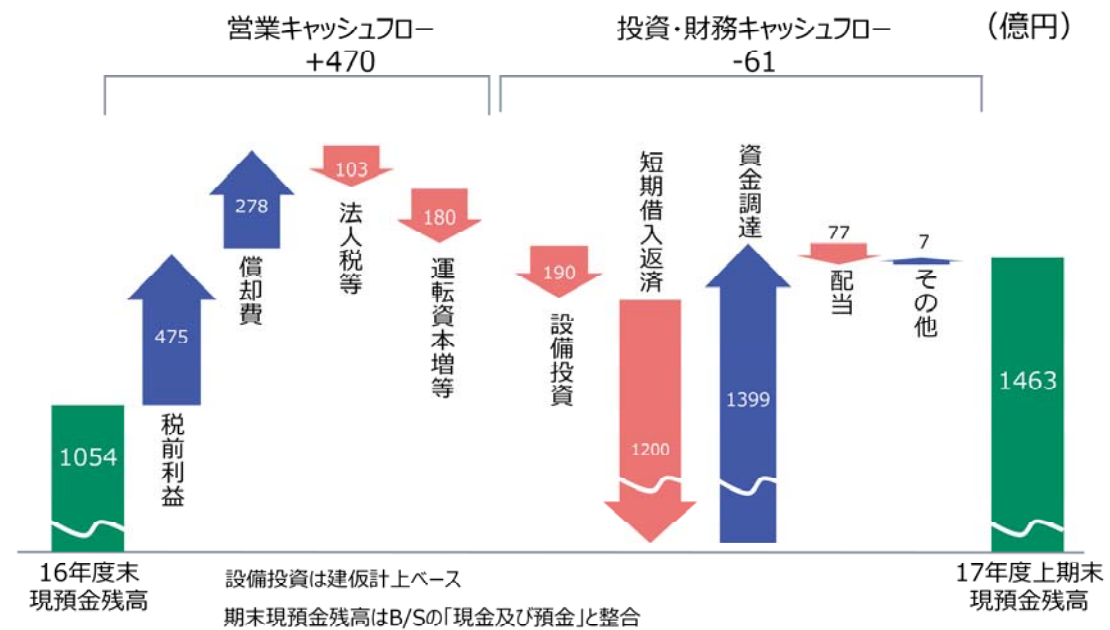


14/19

# 設備投資と研究開発費



# キャッシュフロー





## 17年度 為替感応度

(億円)

	USD		EUR	人民元
	のれん等償却 除く	のれん等償却 含む		
売上高	16	16	8	18
営業利益	0	-2	5	9

<参考> 10%変動時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
営業利益	-18	8	56	10	14	33

## (参考) IFRSベース

- 2017年度 期末決算からIFRS（国際会計基準）を適用
- 開示スケジュール 2017年度第1～3四半期 : 日本基準  
2017年度期末決算短信から : IFRS

(億円)	参考		影響
	日本基準 17年度上期	IFRS 17年度上期	
売上高	2,846	2,846	-
営業利益 (率)	479 (16.8%)	575 (20.2%)	+96
調整後営業利益 (率)	624 (21.9%)	647 (22.7%)	+23
純利益	330	411	+81

## おことわり

---

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。